平成30年度 生活指導部 年間マネジメント						岩美町立岩美中学校
学校教育	目標	校訓「みずから学び、みずから鍛え、みんなと生きる」	を体現する生徒の育成			
重点努力事項		(1)20年先を見据えた教育の推進(長期的学力向上) (2)3年間で力をつける岩美中教育の実践(短期的学力向上) (3)学校不適応への対応力アップ				
(みずから学ぶ) 当たり前のことを当たり前にできる生徒の育成 分掌重点目標 (みずから鍛える) みずから動ける生徒の育成 (みんなと生きる) 生徒の自己肯定感を高め、他者を受容できる生徒の育成						
柱となる 活動		I 活動へ向けての努力事項 Do	到達目標	評価基準 Check	成果と課題 Do&Check	来年度への提言 Action
一口到		的生活習慣の定着	  ・集団生活のルールを守り、  マナーを身につけ、モラルを	く生活振り返りアンケート>   「服装・頭髪等学校のルールを守って生	Dowelleck	Action
みずから学ぶ活動	03 01	交内生活におけるルールとマナー指導 登下校のルールとマナー指導 望ましい食習慣の定着 ・給食時間の指導 ・生徒及び保護者に向けた啓発活動	高める。 ・生徒の交通安全の意識を高め、登下校中の交通によるトラブルをOにする。	活できていますか。」95%以上 登下校中の交通事故0件 地域からの苦情件数0件		
	o O	・生活振り返りアンケート・食生活アンケート 実施 ・各委員会(生活・給食)との連携	・栄養パランスを考えて朝食 を摂ることができる。 ・栄養の偏りなく食事をしよう とすることができる。	(生活振り返りアンケート) 「朝食を必ずとる」が95%以上 (食生活調査) 「主食・主菜・副菜がそろっている」 …60%以上 「栄養のパランスを考えて食べている」 …60%以上 「苦手なものでもがんばって食べている」 …60%以上		
	O生 (「	理解や違いを認め合う心を養う人権学習 徒同士、生徒と教師の信頼関係の強化 呼び方、コーチングスキルの向上) WT、ソーシャルスキルトレーニングの実践	・自分の思いを表現し、人の 思いを受け止めながら、落ち 着いた生活を実践することが できる。 ・相手との対等な関係を考え ながら会話・行動しようとする ことができる。	学級でのGWT、SSTの実践 ・学活における実施…5回以上 ・帰り学活における実施 …ふれあいタイムの活用		
				間はずしにしたりするのを見たら、どうしますか。注意できる等前向きな意見 …95%以上 「立場の違いを超えて話し合い、解決へ」 肯定的評価…95%以上		
みずから鍛える活動		分の足で登下校することの徹底 食討事項(自転車通学のカッパ着用)	・登下校の際に、簡単に送り 迎えをしてもらうのではなく、 決められた通学方法により自 分の足で登下校することの 習慣化を図る。	〈生活ぶれあいアンケート〉【新項目】 「決められた通学方法で登下校している」 …70%以上		
	(Ŧ	言掃除の取り組みを通した自分磨きの推進 デルを示しながら、心の育成を目指す) 化活動の推進	・積極的に清掃活動に取り組む生徒が増える。 ・緑化活動への参加者の増加	<生活振り返りアンケート> ・無言掃除…90%以上		
	•保	康増進活動に進んで取り組む生徒の育成 、小、中が連携した歯磨き指導の実践 委員会(生活・保体)との連携による啓発活	・早寝・早起き・朝ごはんの定着。	〈生活振り返りアンケート〉 「1日の睡眠時間」7時間以上 …70%以上		
	・生	ディアとの上手な付き合い方の指導 徒及び保護者への啓発活動の推進 演会の実施・授業における指導)	・メディアの利用を自己管理できるようになる。	〈生活振り返りアンケート〉 「1日のメディア利用時間」 平日2時間未満…80%以上		
みんなと生きる活動	O安 ※i	互いを認め合える心の育成 心できる居場所づくりの推進 <mark>週1回の生徒支援部会の実施</mark> 育相談活動の充実	適応生徒への適切な対応に	新規不登校生徒0人。 昨年度、不登校生徒の学校復帰3人。 〈生活振り返りアンケート〉(肯定的意見) 「自分のことが好き」・・65%以上 (昨年度3月54%)		
	実職	別支援教育の視点に立った生徒指導の充 員研修の実施 別支援学級教科担当社会の定期的実施	・「個別の教育支援計画」や「個別の指導計画」に基づいて、教職員が連携し個別支援を行うことができる。 ・研修を行い具体的な支援法の共通理解と実践	(教職員質問紙) 「一人ひとりの生徒に対し綿密な特別支援教育が実施されている」 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・		